

# お茶の京都を支える宇治茶生産アクションプラン

～世界文化遺産登録を目指し、『宇治茶生産の景観』を未来へ～

【担当部課】 農林水産部 農産課

## 問題意識

### プラン策定の趣旨

国においては、平成 23 年に「お茶の振興に関する法律」が施行され、京都府では、世界文化遺産登録を目指し、「日本茶のふるさと『宇治茶生産の景観』」をコンセプトとした提案書を平成 26 年 6 月に文部科学省に提案したところです。

また、平成 26 年度から、宇治茶づくしをコンセプトに南部地域の文化・産業を振興する「お茶の京都」づくりを推進しています。

しかしながら、府内産茶は、この 10 年で生産量が横ばいであるものの、茶価は 13%低下し、60 歳以上の生産者が 64%を占めるなど、将来の宇治茶生産が懸念される状況となっており、世界文化遺産登録を目指すためにも、生業である茶業経営を確実に継続し、美しい山なり茶園景観の維持や伝統的な覆下栽培技術の継続が重要であります。

このため、府内全域の茶業振興の方向を示す「京都府茶業振興計画」を策定することとしており、本プランでは、山城地域において山なり茶園での生産が維持され、覆下栽培の手摘み茶等が生業として継続できるよう、生産者が協力・連携して茶園を維持する仕組みづくりや手摘み茶等のブランド力の向上対策を検討し、宇治茶生産の次世代への継承案を取りまとめるものです。

### 現状と課題

#### 1 山なり茶園地域の生産対策

(現状)

- ・ リーフ茶需要の減少により、煎茶価格が低迷
- ・ 生産者が減少する中、担い手の規模拡大により茶園面積を維持し、荒廃化抑制と産出額を確保
- ・ 茶価の低迷が続く中、抹茶スイーツの需要等への対応から煎茶園の直掛け被覆によるてん茶生産等覆い下茶への転換によって所得を確保
- ・ てん茶生産量が煎茶を上回っており、抹茶需要の増加に伴い、今後もてん茶への転換が拡大する見込み
- ・ 主産地の山城地区東部の茶園は、緩傾斜から急傾斜地に存在し、美しい景観を形成しているが、作業の重労働に加え、煎茶を中心とした機械化と規模拡大が困難

(課題)

- ・ 傾斜地での栽培継続による歴史ある山なり茶園が織りなす美しい景観の維持

- ・ 担い手の規模拡大が限界に近づきつつあり、作業の効率化や新たな担い手の確保が必要
- ・ 経営を維持するためには、山なり茶園の煎茶生産を維持しつつ収益性の高いてん茶や玉露等覆い下茶への移行と覆い下茶の品質向上が必要
- ・ 覆い下茶の品質向上のためには、被覆棚の整備や京都府奨励品種の導入等が必要
- ・ 自園自製の有機栽培の取組が拡大しているが、輸出など個別対応にとどまっている。

## 2 高級（手摘み）茶の継承対策

### （現状）

- ・ 高級（手摘み）玉露・てん茶の単価低迷が茶業経営を圧迫。
- ・ 高齢化により、摘み子の確保が年々難しくなっているが、現在の摘み子の確保対策は地縁、血縁や産地周辺でのチラシ配布頼み。
- ・ 手摘み茶は手で摘むことにより新芽だけを摘むことができ、機械を使って一気に摘採するのとは比べ古葉や茎などの混入が格段に少なくなるため、その品質は最高級のものであり、特に覆い下で生産される手摘みの玉露やてん茶は高級な宇治茶のステータス・シンボル（象徴）であるが、このままでは消滅の恐れがある。

### （課題）

- ・ 高級な宇治茶のブランドイメージを守るため、手摘み茶の生産を継承していく仕組みづくりが必要。
- ・ 高級（手摘み）茶経営は人件費がかかりコストダウンが難しいので、価値を伝え高く売るための販売戦略の強化が必要。

## 3 ブランディング対策

### （現状）

- ・ 茶小売専門店の減少や贈答品需要の減少など従来型の高級緑茶マーケットは縮小傾向。
- ・ 一方、首都圏を中心に様々なスタイルの日本茶カフェが増加するなど、高級緑茶の新たな消費形態が生まれつつある。

### （課題）

- ・ 消費者ニーズの変化に対応した新たなブランディング対策が必要であり、首都圏等消費地にPR拠点が必要。
- ・ 山なり茶園での特徴ある煎茶生産を活用した交流促進による付加価値の向上

### 新規施策で達成したい具体的な目標

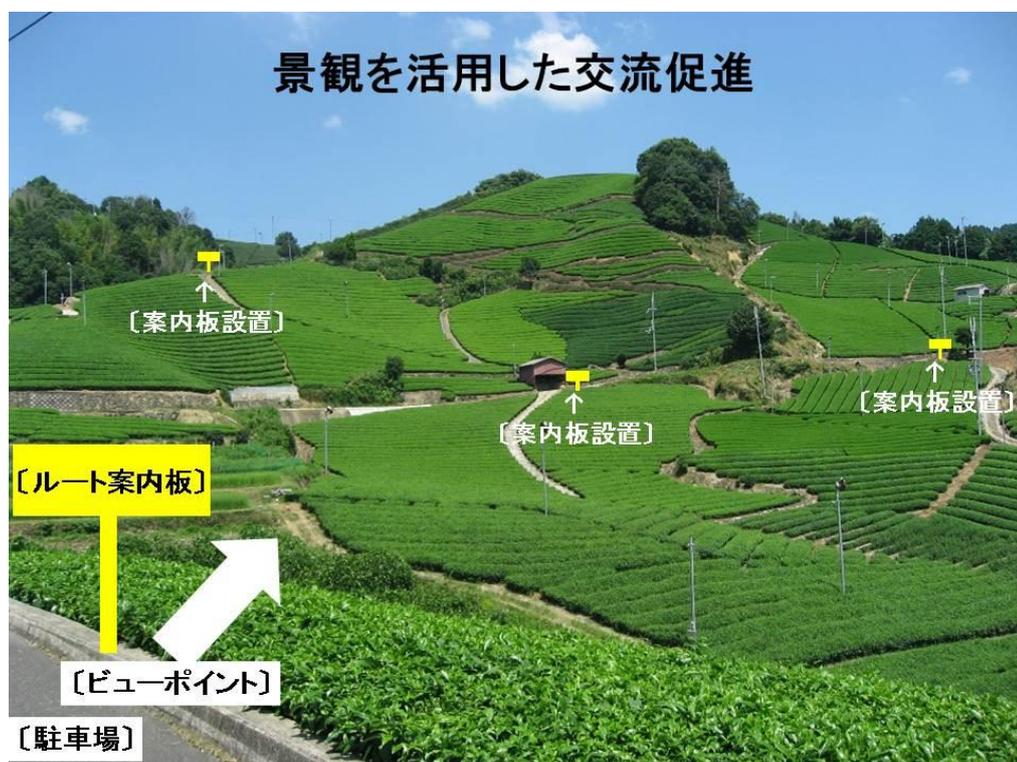
- 1 傾斜地での生業としての茶業経営の継続による担い手の確保と景観を活用した交流促進
- 2 高級な宇治茶のステータス・シンボルである手摘み茶の生産の継承による担い手の確保

[以上1, 2により日本茶のふるさと「宇治茶生産の景観」を維持]

## 新規施策のスキーム(模式図)

### 1 景観を活用した交流促進が生まれる体制整備

- ・ 京都府景観条例に基づく登録地区等において、中山間地域直接支払の対象とならない茶園とその周辺ほ場について、地区が行う清掃等の景観保全活動を支援
- ・ 美しい山なり景観を背景に地域外との交流が生まれるよう魅力を伝える案内板やルート案内板、ビューポイント、離合コーナー等の設置
- ・ 併せて、農家民宿や農家レストラン、農家の軒先で気軽にお茶が飲める宇治茶縁側カフェの開設支援等により、地域で宇治茶の消費を拡大できるビジネスモデルを構築
- ・ ボランティアホリデー・ポータルサイト等の活用により、茶産地へボランティア（ワーキングホリデー）を積極的に受け入れ、援農活動を推進

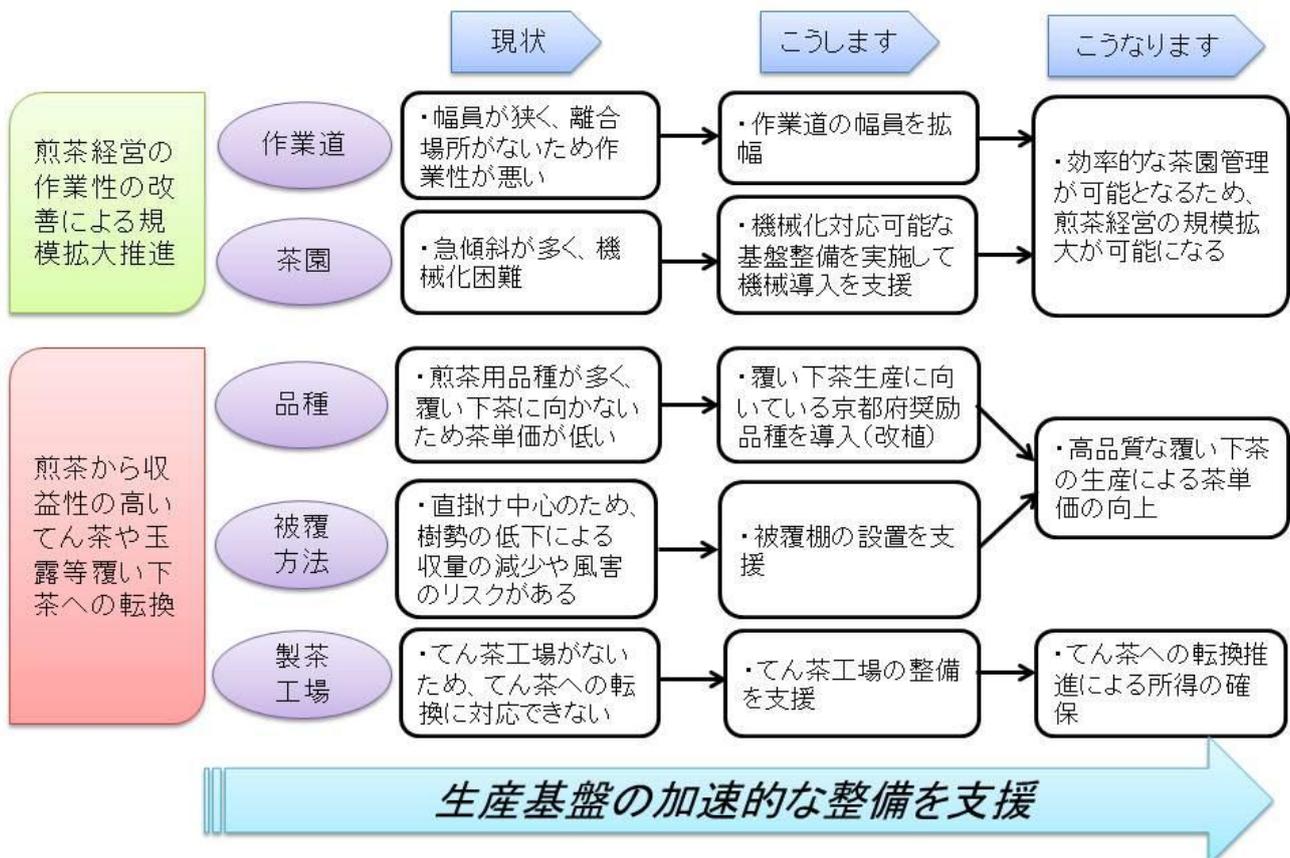


## 2 美しい山なり茶園の生産対策の創設

### (1) 生産基盤の加速的整備支援

- ① 山なり茶園の煎茶経営の効率的な茶園管理を図るため、狭い作業道の幅やUターンスペースの確保等小規模な基盤整備を支援
- ② 景観に配慮した上で、生産の省力化を図るため、機械化対応可能な基盤整備を支援
- ③ 機械化対応可能な茶園においては乗用型茶園管理機の導入を支援し、生産の省力化と規模拡大を推進
- ④ 生産量を維持するため、計画的な改植を支援するとともに、てん茶や玉露等覆い下茶への移行では、京都府奨励品種の導入を推進
- ⑤ 高品質なてん茶や玉露等覆い下茶栽培に必要な被覆棚（被覆資材含む）の整備を支援
- ⑥ 高品質なてん茶生産に必要なてん茶工場や高品質な煎茶や玉露等揉み茶生産に必要な小ロットの揉み茶工場の計画的な整備を支援

### 美しい山なり茶園の生産基盤の加速的整備支援

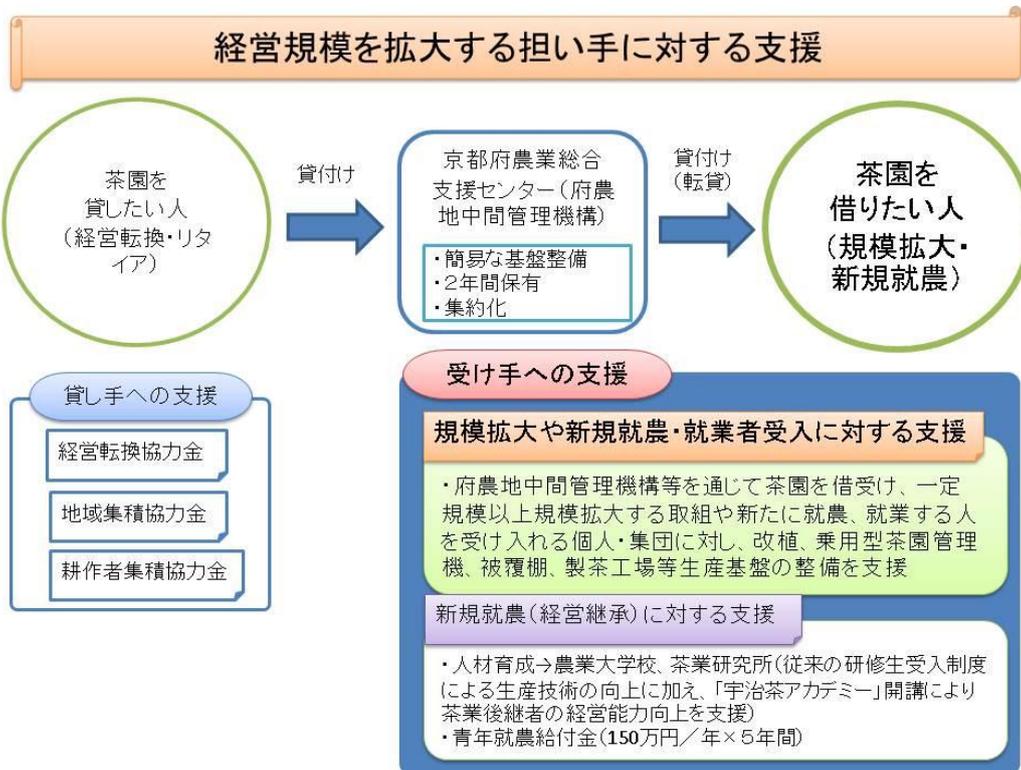


# 美しい山なり茶園の生産対策



## (2) 担い手支援

- ・ 高齢化による規模縮小や廃業予定の茶園を京都府農地中間管理機構等を通じて借り受け、一定規模以上規模拡大する取組や新たに就農、就業を希望する人を受け入れる個人・集団に対し、改植、乗用型茶園管理機、被覆棚（被覆資材含む）、製茶工場等生産基盤の整備を支援



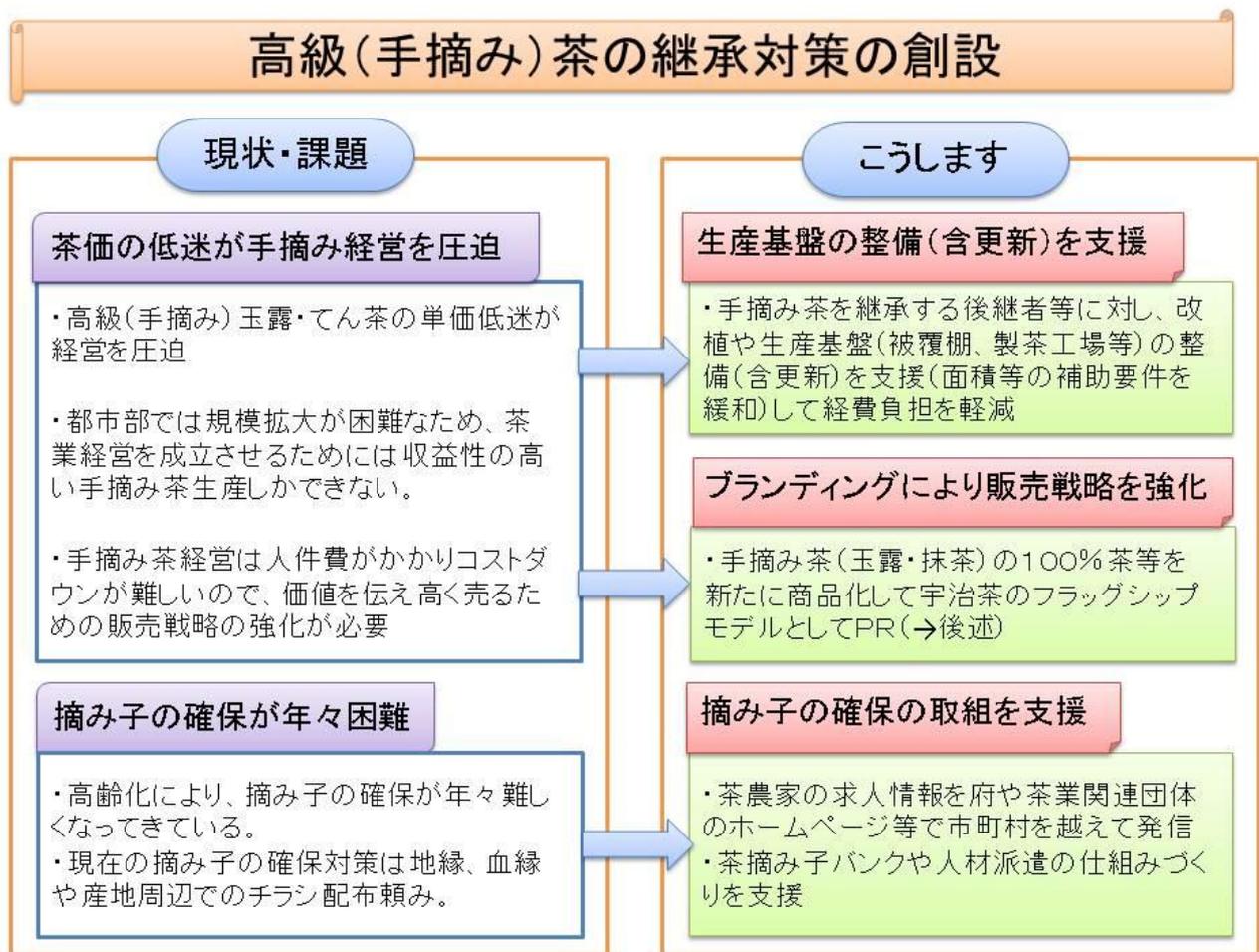
### 3 高級（手摘み）茶の継承対策の創設

#### (1) 担い手支援（生産基盤の整備（更新）支援）

- ・ 手摘み茶を継承する後継者や規模拡大を行う場合に対し、改植や生産基盤（被覆棚（被覆資材含む）、製茶工場等）の整備（更新含む）を支援

#### (2) 摘み子の確保支援

- ・ 宇治茶農家の季節的な雇用労力（摘み子等）を安定的に確保するために、茶農家の求人情報を府や茶業関連団体のホームページ等で市町村を越えて発信するとともに、茶摘み子バンクや人材派遣の仕組みづくりを支援



#### 4 ブランディング対策

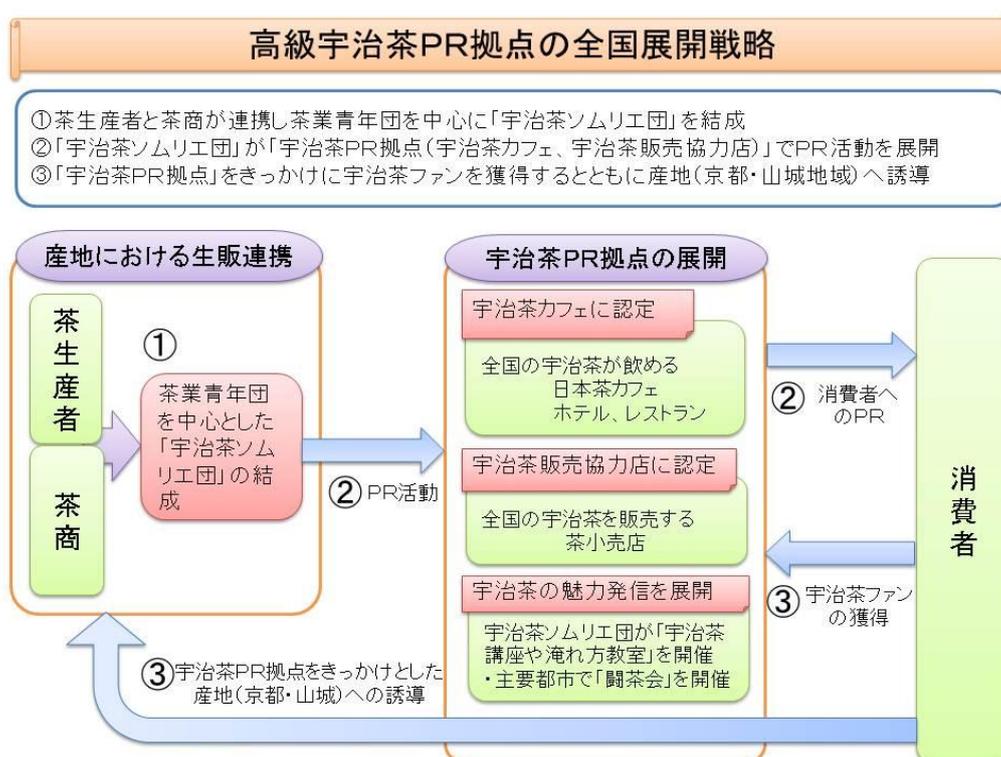
##### (1) 歴史や文化などストーリー性を持たせた宇治茶のフラッグシップモデルの開発

- ・ 伝統と歴史があり希少性のある「手摘み茶（玉露・抹茶）の100%茶」や「山なり茶園の煎茶」、「京都産100%宇治茶」、「美味しさ保証（例：1,000円以上/100g）の宇治煎茶」等の品質保証をした茶を新たに商品化して「宇治茶プレミアム」としてPR。
- ・ 商品化に際しては歴史や文化などストーリー性を持たせた訴求力のあるネーミングや包装紙など専用のパッケージングを追求するなど、宇治茶としての「商品説明力」を高める。
- ・ 併せて消費者の様々なライフスタイルを想定し、「ワイングラスで飲むボトリングティー」や「高級ティーパック」などの新たな形態の高級宇治茶商品を開発して新たな飲み方を提案。



##### (2) 高級宇治茶PR拠点の全国展開戦略

- ・ 茶業界団体が「宇治茶PR拠点」として全国の宇治茶が飲める飲料店を「宇治茶カフェ」に、また宇治茶を販売する店舗を「宇治茶販売協力店」に認定。
- ・ 茶業青年団を中心に「宇治茶ソムリエ団」を結成し、「宇治茶カフェ」や「宇治茶販売協力店」でのPRを行うとともに主要都市で大規模な闘茶会や淹れ方教室等を開催し、宇治茶の魅力発信を展開。

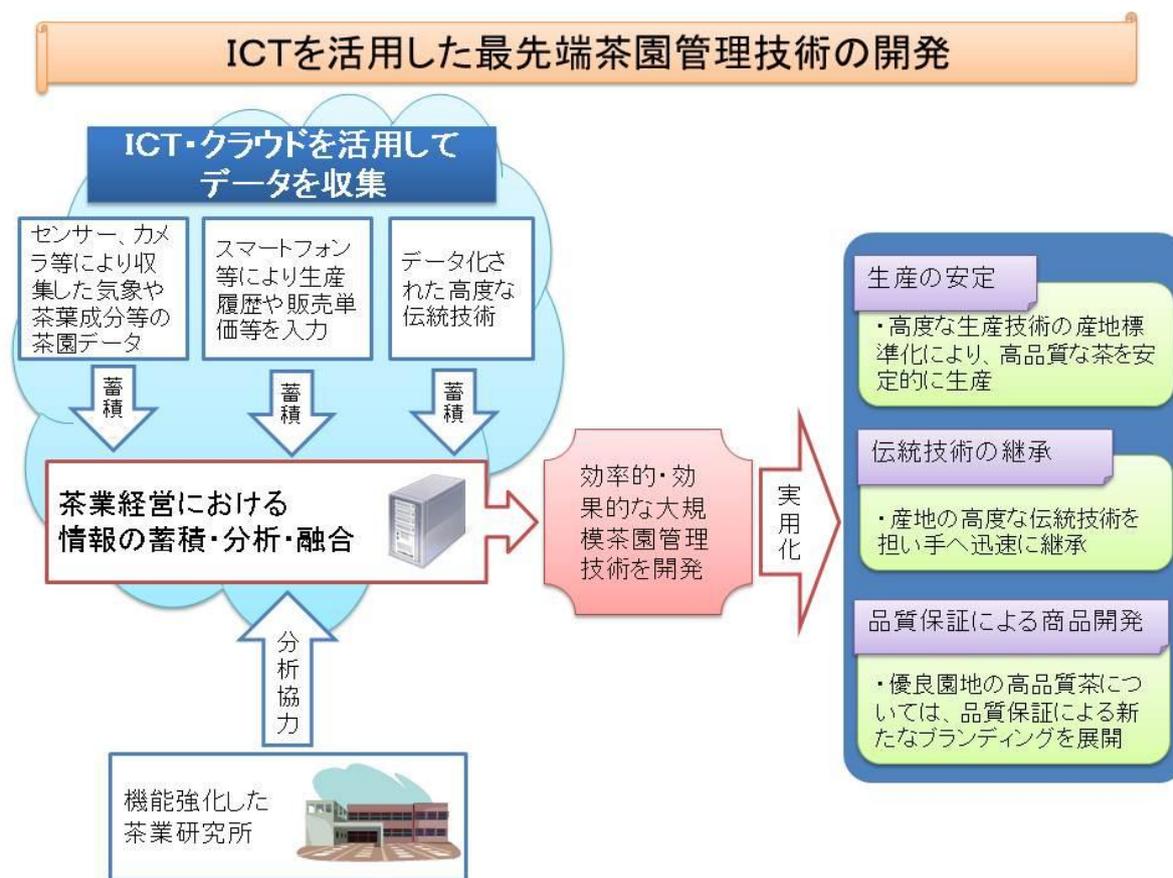


### (3) 情報発信の強化

- ・ 「宇治茶PR拠点」をきっかけに宇治茶ファンを獲得するとともに、農林水産フェスティバル、国内外で開催する京都府物産展に訪れる宇治茶ファンや消費者に対して、歴史や観光、和食と京野菜・京の酒等も含めた京都の魅力を総動員してPRし、産地への誘客を推進する。
- ・ 宇治茶伝道師の活動やお茶なびによる情報発信に加え、京都ファンの女性や外国人観光客、シニア層を対象に付加価値を高めるため、宇治茶の歴史や文化などストーリー性を持たせた情報を紙媒体（チラシ、パンフレット）やWEB媒体（ホームページ、SNS、動画サイト「宇治茶チャンネル（仮称）」）等で総合的に発信。

## 5 最先端茶園管理技術の開発

- ・ 機能強化した茶業研究所と連携しながらICT（情報通信技術）を活用して気象等茶園のデータと伝統技術データを蓄積・融合し、効率的・効果的な大規模茶園管理技術を開発するとともに、優良園地の高品質茶については品質保証による新たなブランディングを展開。
- ・ 低農薬栽培マニュアルの作成と技術指導により、輸出用茶を生産拡大し、担い手の取組拡大を支援



## 工程表(ロードマップ)

年 度	1 景観を活用した交流促進が生まれる体制整備	2 美しい山なり茶園の生産対策	3 高級(手摘み)茶の継承対策	4 ブランディング対策	5 最先端茶園管理技術の開発
27 年度	(1)美しい山なり景観の魅力を伝える案内板やルート案内板、ビューポイント、離合コーナー等の設置に向けての地元調整	(1)生産基盤の整備支援 (2)担い手支援	(1)担い手支援 (2)摘み子の確保支援	(1)高級宇治茶PR拠点認定のための茶商との協議調整 (2)宇治茶ソムリエ団結成 (3)宇治茶プレミアムの試作販売に向けての茶商との協議調整 (4)情報発信の強化	(1)ICTを活用して茶園データを蓄積するための体制整備 (2)データ蓄積のための実証活動の実施
28 年度	(1)美しい山なり景観の魅力を伝える案内板やルート案内板、ビューポイント、離合コーナー等の設置 (2)農家民宿や農家レストラン、宇治川縁側カフェの開設等に向けての地元調整	(1)生産基盤の整備支援 (2)担い手支援	(1)担い手支援 (2)摘み子の確保支援	(1)高級宇治茶PR拠点の認定 (2)宇治茶ソムリエ団によるPR活動の実施 (3)宇治茶プレミアム試作販売開始 (4)情報発信の強化	(1)ICTを活用して茶園データを蓄積するためのシステム整備 (2)データの蓄積・分析
29 年度以降	(1)美しい山なり景観の魅力を伝える案内板やルート案内板、ビューポイント、離合コーナー等の設置 (2)農家民宿や農家レストラン、宇治川縁側カフェの開設等により、地域で宇治茶の消費を拡大	(1)生産基盤の整備支援 (2)担い手支援	(1)担い手支援 (2)摘み子の確保支援	(1)高級宇治茶PR拠点(宇治茶カフェ、宇治茶販売協力店)の認定 (2)宇治茶ソムリエ団によるPR活動の実施 (3)主要都市で闘茶会を開催 (4)宇治茶プレミアム本格販売開始 (5)情報発信の強化	(1)データの蓄積・分析 (2)最先端大規模茶園管理技術の開発と実用化

## その他関連情報

### 1 検討委員

氏名	所属
石田 豊	公益財団法人京都産業 21 連携推進部長
大原 泰博	京都やましろ農業協同組合 茶業部長
桂 明宏 (座長)	京都府立大学大学院 生命環境科学研究科 准教授
五艘 みどり	和束町雇用促進協議会 まちづくりアドバイザー
小西 茂毅	静岡大学 名誉教授
田川 由美子	タガワ・コンサルティングオフィス 代表
吉田 利一	京都府宇治茶製法手揉み技術保存会連絡会議 会長

(50 音順、敬称略)

### 2 検討委員会の開催状況

開催年月日	主な議題
平成 26 年 7 月 2 日	会議の進め方、現状認識、論点整理
平成 26 年 7 月 16 日	山城東部地域 (中山間地) の生産対策
平成 26 年 8 月 6 日	山城地域 (平坦地) の生産対策、流通改善
平成 26 年 9 月 1 日	アクションプラン (中間案)
平成 26 年 11 月 10 日	アクションプラン (最終案)